

## 令和5年度「老年看護学Ⅰの授業」を紹介します。

看護学科2年生を対象に地域の高齢者居場所づくりの活動をされている府中桂子さんをお招きして、高齢者とのコミュニケーションの演習を行いました。高齢者は加齢により聴力や視力が衰えるため他者とのコミュニケーションが難しくなります。演習では、外来受診の場面での看護師と高齢者とのコミュニケーションのデモンストレーションを見せて、学生間で良い点や改善点についてディスカッションしてもらいました。その後、実際に4人の代表の学生に高齢者とコミュニケーションを実施してもらいました。

高齢者を模擬患者としたロールプレイを体験した学生からは「自分で考えた通りにいかないことが起こったときにどのように対応できるのかはこれまでの経験とかに頼るしかなくて大変だった。今回、リアルな体験ができたので、うまくいったこと、うまくいかなかったことを振り返って今後活かしたい」という感想がありました。またロールプレイを見ていた学生からは、「学生同士でのロールプレイだとどうしても友人としての会話になってしまって高齢者を模倣することは難しい。しかし今日の演習では実際に高齢者の方の反応や言葉に触れることができ、声のトーンや大きさ、言葉遣いなど気をつけなければならないことが沢山あると勉強になった」等の感想がありました。

学生は、今までの日常生活や実習体験での高齢者とのコミュニケーションを含めて振り返り、高齢者が理解しやすいコミュニケーション方法について考えることができていました。

(看護学科 担当教員：竹内)



目の見え方について新聞を用いて確認しています



高齢者の目を見て、話をうかがっています